

令和6年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	6 1		学校名	茨城県立藤代高等学校				課程	全日制		学校長名		根本 雄一				
教頭名	大竹 伸輝											事務（室）長名		加賀谷 智美			
教職員数	教諭	4 1	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手		2	事務職員	3	技術職員等	4	計	5 7
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普 通 科		1 2 6	1 1 5	1 2 9	8 9	1 1 8	1 1 8			3 7 3	3 2 2	1 8				

2 目指す学校像

・一人一人の生徒と誠実に向き合い 高い知性 たくましい気力 礼節を重んずる人間を育成する学校
・みずからの力を信じ 社会の中の人間として たゆまず真理を求めることのできる人間を育成する学校
・地域に信頼され 地域から日本・世界へ グローバルな視野を持つ人間を育成する学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） ・時代の変化に応じて創造的にキャリアを形成しながら社会に貢献できる人財 ・規範意識と豊かな人間性を身に付け、健やかな心身と他者への思いやりを持った人財 ・郷土に対する誇りや周りの環境に愛着をもち、地域社会の未来を牽引できる人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） ・普通科の理念の下、生徒の多様な学習ニーズに対応した履修機会の提供 ・生徒一人一人の進路希望を実現させる、確かな知識・技能、より高度な思考力・判断力・表現力を育む授業 ・教育課程全般を通して課題を発見し、仮説を立て取り組み、まとめ・表現し、次の「探究」サイクルへと繋げる学びをデザイン
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） ・多様な分野に興味関心を持つとともに、自己の専門をより深く探究しようという意欲のある生徒 ・自己の将来を見据え、進路実現に向け日々努力することができる生徒 ・倫理観や規範意識があり、学校生活に積極的に関わる意志のある生徒

別紙様式1（高）

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒の家庭学習時間が少なく、予習・復習に常に取り組んでいる生徒の割合は 50%以下である。受け身の態度で授業に臨んでいる生徒も少なからずいる。	学習への意識啓発及び主体的・対話的で深い学びに導く、授業改善に取り組む。
進路指導	大学への進学希望が 90%以上であり、その多くが国公立大学や難関私立大学を希望している。達成状況は、少しずつ上昇傾向にあるが、満足できるレベルに達成していない。	生徒の適性・興味・関心・進路希望等を正確に把握し、進路実現のための組織的・系統的な進路指導を推進する。
生徒指導	交通安全面に関して、非常に危険な事例も発生しており、危険予測・事故防止についての十分な指導が必要である。	交通安全の理解を深め、規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立・定着を推進する。
特別活動	部活動や学校行事については90%以上が充実感を感じているが、学習との両立に苦慮している生徒もいる。県の方針に従った健全な部活動運営を遵守する。	生徒の個性・自主性を認め、伸ばし、発揮させる特別活動・部活動を展開する。キャリア・パスポートを活用し、自らのキャリア形成を図る。
働き方改革	社会の変化に伴い学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、教員の長時間勤務の実態が明らかになっている。	勤務時間・健康管理を意識した働き方を推進し、学校業務の見直しを図る。

5 中期的目標

1 確かな学力の涵養 2 一人一人に寄り添った進路指導の充実 3 豊かな心及び道徳的实践力の育成 4 開かれた学校づくり 5 学校における働き方改革の推進 6 教科及び学校の授業改善の推進

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
確かな学力の涵養	① 基礎基本の徹底と自主的・能動的な学習習慣の確立 ② 学習意欲を高める主体的・対話的で深い学びを意識した授業の改善 ③ 国際理解教育の充実と海外派遣プログラムの推進
一人一人に寄り添った進路指導の充実	④ 進路実現のための組織的・系統的なキャリア教育の推進 ⑤ 的確な情報提供による主体的な進路選択能力の向上

別紙様式 1 (高)

豊かな心及び道徳的実践力の育成	⑥ 基本的生活習慣の確立・定着 ⑦ 規範意識の高揚と自主的・自立的・自律的態度の育成 ⑧ 学校行事や生徒会活動、HR 活動、部活動の充実
開かれた学校づくり	⑨ 教育活動の積極的な情報発信 ⑩ 保護者や地域の声等の情報収集と地域の教育力の活用
学校における働き方改革の推進	⑪ 勤務時間を意識した働き方の推進 ⑫ 学校業務の見直し
教科及び学校の授業改善の推進	⑬ 生徒の満足度が高い授業の実践 ⑭ 生徒の希望進路の実現に資する授業の展開 ⑮ 生徒による授業満足度 3.0 以上